



朝風

平成 30 年度
学校報 9 月号④
大 仙 市 立
大 曲 南 中 学 校

「自立」・「対話」・「貢献」 広い視野をもち 互いを認め合い 地域から行動する生徒の育成

この「対話」を、本校では「互いに違いを認め合い、尊重し合うための活動であり、多様性を受け入れるための基礎」と捉えています。そのため、授業での対話的な学びに加え、カリキュラムを工夫し子供たちに多様な経験の機会を提供しています。

↑
学
校
教
育
目
標

車椅子バスケットを通しての対話

◇先日、市教育委員会のプロデュースで、秋田県車椅子バスケットボール協会や人権擁護委員の皆様を本校にお招きし、「車椅子バスケットボール体験教室」を開催しました。参加したのは3年生です。



《まずは》協会の皆様に準備していただいた競技用車椅子を使つての基本操作練習です。進んでストップ、全力で Go!、ジグザク走行、ターン練習をしました。

《次は…》ゴール下でのシュート練習、走りこんでのシュート練習と続きます。



《最後は》いよいよゲームです。協会の方々にも一人ずつチームに入っていただき、5対5のミニゲームを行いました。

*シュートはホント難しい! 届かない!



◆「はじめは緊張して車イスを操作することもままならなかったのですが、指導者の方々の丁寧な指導とサポートのおかげで、ミニゲームではシュートを決めることができました。指導者の方もおっしゃっていたように、僕はこれからも思いやりをもって行動していきたいです。障害の有無を問わず誰にでも優しく互いを認め合って生きていきたいです。」(3年 男子)

◆「最後の質問コーナーでは、車椅子の大変さを話してくれて、それを聞いて今日体験した不便さと重なる部分があった。今日のことは自分の人生に大きく関わってくると思う。」(3年 男子)



◆「普通にバスケットをしてもシュートが決まらないのに、車椅子に乗るともっと決まらなくなりました。しかし、相手の気持ちを考えてボールを受けたり声をかけたりすることができました。今後は相手の気持ちを考えて、困っている人がいたら助けてあげられるようにしたいです。」(3年 女子)

◆「教えてくださった方の話で、スーパー等の優先駐車場の話が心に残りました。健常者が優先駐車場に車を止めているのをたまに見るけれど、その行為は車椅子の利用者さんにとってはすごく迷惑だと思うので、回りのことを考えて生活していく必要性を考えさせられました。」(3年 女子)

都市新人総体〜支援&応援に感謝〜

新人戦が終わりました。ご支援に感謝申し上げます。また、期間中に「日本 PTA 東北ブロック秋田大会」に参加して、応援できなかった方もいました。申し訳なく思います。(大会の結果につきましては、「体文だより」をご覧ください。)

チーム力には色々あって、必ずしもみんな平等なわけではありません。生徒数の減少が進んでいる昨今はおささらです。

しかし、その中で今いる仲間と力を合わせて頑張り、このメンバーでひとつでも多く勝つにはどうしたらいいかと模索&奮闘するの、も部活動だと思います。そのために大切なことは、普段の生活です。生活はその人の考え方そのものだからです。「鍛える秋→冬」は、自身の生活を振り返るところから始めてほしいものです。



秋の交通安全運動実施中

